

都市型震害に学ぶ市民工学

—兵庫県南部地震の現場から

大野 春雄・荻本 孝久 共著



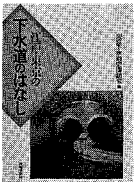
B5判・93ページ。
定価2500円(税込)。
平成7年5月15日初版発行。
同年6月6日受付。
〒113 東京都文京区
本郷5-5-18
山海堂発行。
Tel.03-3816-1617

本書は著者らが地震直後から延べ17日間にわたり現地調査した結果をもとに、不足した部分を他の各機関で実施した調査報告などで補完しながら地震の被害をまとめたものである。内容は被害を受けた構造物に対して、道路、鉄道、港湾、建物、ライフライン、さらに地すべりや火災など細かく事例ごとに分類し整理されている。本文では各ページに写真が豊富に掲載されており、専門用語も判りやすく解説されている。また地震の起こるメカニズムなどの解説もあり、土木・建築の技術者のみならず一般の人でも理解しやすい内容になっている。

本書を読み返すと、今回の地震で起こりうるすべての災害が発生していることがわかり、あらためてこの地震の大きさが実感できる。 【く】

江戸・東京の下水道のはなし

東京下水道史探訪会 編



B6判・157ページ。
定価1854円(税込)。
平成7年5月22日初版発行。
同年7月26日受付。
〒107 東京都港区
赤坂1-11-41
技報堂出版発行。
Tel.03-3585-0166

100万人が暮らしていた江戸の町の下水道はどのようなものだったのだろうか? 「町触れ」や「川柳」などの古文書、「沽券絵図」や「浮世絵」などの絵図といった様々な資料を紐解き、この質問に応えるところから本書は始まる。つぎに東京が明治から大正へと近代都市に変貌していくなかで、行政が下水道の整備をどのように推進していったかを、当時の新聞記事から明らかにしていく。そして最後に、下水道の建設技術、処理技術の変遷などを、下水道整備に従事した技術者から「聞き書き」している。

江戸と呼ばれていた時代から、東京に計画的な下水道とその維持管理の仕組みが存在していたことに驚かされる。またその後の近代化のなかで、技術、政治、行政上の問題を解決しながら、下水道が整備されてきた過程は、現在の公共事業のあり方とも共通点が多く興味深い。 【よ】

建設のニューフロンティア 構想と先端材料

大濱 嘉彦・三橋 博三 編



A5判・232ページ。
定価4326円(税込)。
平成7年6月15日初版発行。
同年7月26日受付。
〒107 東京都港区
赤坂1-11-41
技報堂出版発行。
Tel.03-3585-0166

本書の内容を型通りの表現で紹介すれば、「大深度地下、超々高層建築、宇宙多関連構造物など、建設分野のニューフロンティア構想を紹介し、それぞれの分野が今後新しい展開を見るために必要となる課題を、先端材料の導入という観点からまとめたもの」となるであろう。しかし、実際には読み手の捉え次第で、様々な読み方ができる本である。

例えば、月面を掘削し構造物を作る場合の問題点など、普段考えたこともない内容が語られており、頭が堅くなった人には、発想の転換を図るきっかけになるであろう。また、様々な建設分野でのブレークスルーに必要な技術開発の方向性が示されており、起業家を目指す人にとっては、新たなビジネスチャンスを見いだす一助となるかもしれない。 【た】